

栄ちゃんの

熱血・演歌塾

『高山の女』編



男と女の間には、出会い、熱情、そして別れ、様々な状態があります。

そしてその時の心情にぴったりと気持ちが寄り添う歌があります。

色んなケースを歌って来ましたが、今回の作品は別れても尚、狂おしいほど相手を思い、別れて自分のもとを去って行った女性を思う歌です。

又、再び出会い、この胸のうちに抱きしめてその思いを伝えたい。そんな男の真情を熱く歌い上げます。

私の歌で何作か前に”あの日の君を恋うる歌”と言う歌を歌いましたが、

あの歌と対象的なケースです今回の歌は！

あの日、、の時は遠く離れて、過ぎ去った過去を今、述懐し、その時の男の胸の内をしみじみと歌う。

二度と立ち戻らぬお互いの若き日の映像がストップモーションのように甦り、

二人の美しい思い出を懐かしむ内容だと思えますが、”高山の女”は中部の小京都と呼ばれる

飛騨高山が舞台で日本の古き良き時代のたたずまいを色濃く残す美しい町を背景に

男の強い思いを歌います。

今回の歌のポイントは歌い出す前に相手に会いたいその気持ちを強く持つ。ここを心掛けて下さい。

曲の作りも音域が広く、息の量も声も結構使います。

行って見ましょう！～浅葱色した袖が似合う～浅葱の歌いだしはインテンポで

最初の～あ～の歌いだしには休符はありません。気をつけていきましょう。

次の袖の～つ～ここも同じです。休符はありません。何故かといいますと演歌の場合は

結構フレーズの頭を休符が入りますが、この歌の場合は相手にどうしても逢いたいと言う

強い願望を持っています。気持ちが前向きなんですね。そして浅葱色の袖の着物を着た、

佇まいのすっきりした女を表現します。要するに折り目正しく！と言う意味と、浅葱色の薄緑の

清潔感もその意味合いに入るのでしょ。又、この色は歌舞伎の舞台に使われる引き幕の色にも使われる

そうですから、物語の舞台の始まりですよ！そんな思いも込めて。

～どこか寂しい人だった～。～ど～この音の頭は休符が入ります。女性の心情を詮索するように。

この場合は、彼女は胸の内に熱い思いを秘めているんですね。

～どこか寂しい～ここは大いに感情を入れて！歌が揺れる感じですよ。彼女の激しい情念を表現します。

～人だった～ここは端正に明るいトーンで声を前に出しますこの2行目は大事です。

俗に起承転結の部分で行きますと承の部分ですが、ここは起に対しての捕捉部分ではありません。

この歌の場合は。歌が美しく一幅の錦絵を見るような歌い出しでスタートしますから、

起の部分の感情移入は要りません。極力端正に！

一行目は敢えて色づけをするとすれば華やかさです。相手の女性を華やかに描いて下さい。

そして2行目は一転してヒロインの心情を、心の内を押し量ります。

転の部分に行く為の助走です。3行目は～貴方の胸で死ねたらいいと～2行目からオクターブ以上

音域が飛びますから、ブレスを深く！ここは女の語りでその思いと深い感情を男性に伝えます。

～貴方の胸で死ねたらいいと～女が男の胸を叩くように！

物静かな女がその激しい感情を爆発させるように。特に～死ねたらいいと～ここに感情を込めます。

扇情的と言えは言いすぎでしょうが、そんな雰囲気です！

～泣いて縋った細い指～ここは男性の視線です。リズムをしっかりと刻んで！

女性が拳を振り上げて男の胸を叩きながら表す感情を優しく受け止めるような気持ちで！

～お前に逢いたい～この歌の最低音部です。ブレスを深くとって～お前に～激しい恋情を歌い上げた女

性に応えて響きの良い柔らかく包み込む様な暖かい声と言葉でその思いに応えます。

そして～逢いたい～ここは男性の感情をぶつけます。高音部は女性の思いと感情を！

低音部は男性のそれを！それぞれに歌の中で声を使い分けましょう！

ドラマチックに人物像を歌い上げてこそこの歌の持つ良さが引き立ちます。

～高山の女～ここは男女共に一緒に歌い上げる感じで！飛騨山脈の空に

求め合う二人の気持ちがこだまする様な感じで歌を取り結びます。